

令和 7 年度 陽北中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

- ・ 自ら考え、主体的に学ぶ生徒
- ・ 活気に満ちた、たくましい生徒
- ・ 心豊かで、思いやりのある生徒

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

校訓「聡く 強く 美しく そして、陽北中生としての誇りをもつ」を体現できる生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

社会に貢献できる人間を育成するため、生徒一人一人の自らの良さや身に付けた力に気付かせ、自己有用感を高め学校を楽しく居がいのある場としたい。そして、それらを伸ばしていく指導をもとに、確かな学び、豊かな心、健やかな体を育む教育活動の充実を図る。さらに、人とのつながりの中で互いに支え合い、人に役立つことの意義が理解できる生徒を育成する。

本校の古きよき伝統と校風を守り発展させ、保護者や地域の信頼と期待に応えることにより、生徒が陽北中学校に学ぶことを誇りに感じる学校づくりを目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 学習指導において、教師間で授業を見せ合う機会を増やし、授業実践を通じた指導力の向上に努める。また、教材やICTを効果的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫・改善を図る。
- (2) 生徒の自主的・自立的に活動できる場面を積極的に取り入れ、安心して考えを伝え合い、互いに高め合える学級集団の育成に努め、一人一人の個性の伸長を図るとともに、協働して課題に取り組む態度を養う。
- (3) ○道徳教育において、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的、多角的に考え、自己の生き方や人間としての生き方について考えを深めることができるよう道徳の時間の充実を図り、すべての教育活動をとおして道徳的実践力の育成に努める。
- (4) 生徒指導において、生徒一人一人の人格を尊重し、生徒の自信や自己有用感を高め望ましい行動への意欲付けを図るとともに、生徒のレジリエンス《苦境にもめげずに立ち直る復元力》の向上を図り、豊かな心を育む教育を推進する。そのために、ストレスの管理、前向きに考える訓練、自己肯定感の向上、新しい人間関係を築く、問題解決能力の向上ができる場面を積極的に取り入れ指導にあたる。
- (5) すべての教育活動に、特別支援教育や教育相談の考え方を生かし、一人一人の生徒の内面や能力・環境等の的確な理解の上に、その教育的ニーズに応える教育の実践に努める。
- (6) ○小中一貫教育と地域学校園の推進に努め、重点化・焦点化した活動を展開する。
- (7) 豊かな心と主体性を育む施設設備等のハード面や、言語環境・掲示環境等のソフト面の整備・充実に努める。
- (8) ○生徒・保護者・地域住民等とのより良い人間関係を構築し、地域の小学校との連携はもとより体験的な活動の充実を図り、地域とともにある学校づくりを推進して人間性や社会性豊かで広い視野に立つ生徒を育成する。
- (9) 学校運営では、「教職員の働き方改革」の視点から、ミドルリーダーを核とした校内組織の活性化を図り、校内業務の精選化・効率化を推進していくとともに、勤務時間を意識した働き方を推進していく。
- (10) 「教職員評価制度」や「学校マネジメントシステム」、「魅力ある学校づくり地域協議会」等を有効に活用しながら、学校と家庭・地域との連携・協力を深め、教職員一人一人が情熱をもち協働して指導する。

【陽北地域学校園教育ビジョン】

「学びあい 認めあい 高めあう 陽北地域学校園」 ～人と人の豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育関係諸法規・法令や学習指導要領及び県、市の教育行政の方針等を踏まえる。
- (2) どのように学び、どのような力を身に付けるのか等「社会に開かれた教育課程」を踏まえる。
- (3) 小中一貫教育を推進し、地域学校園で連携した取組を家庭や地域に積極的に発信するなど教育地域とともにある学校づくりの一層の充実を目指す。
- (4) 持続可能な社会の創り手となるよう、生徒が自分のよさや可能性に気づき自己肯定感を高めることができるよう工夫する。
- (5) 生徒の発達段階を考慮し、学習の基盤となる資質・能力や、SDGs等に係る現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を育成することができるよう、教科等横断的な視点で、各教科等の関連付けを図りながら教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
 - ・ミドルリーダーを核とした組織の活性化とともに、校内業務の精選化・効率化を図る。
 - 地域と連携した諸活動の推進
- (2) 学習指導
 - 「学びあい 認めあい 高めあう 陽北地域学校園」に基づいた教員の授業力向上、並びに家庭・地域と連携した学力向上
- (3) 児童生徒指導
 - ・自己有用感を育てる生徒指導と個別支援の充実
 - ・レジリエンスを高める具体策の実施
- (4) 健康（体力・保健・食・安全）（元気アップ教育に係る取組を含む）
 - 生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-（1）確かな学力を育む教育の推進	A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・各学級の学芸委員会が中心となり、家庭学習の内容を掲示したり、実施の呼びかけをしたり、自主的な学習に取り組ませていく。 ・家庭学習の習慣化と内容の充実を図る指導と啓発を行う。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、90.3%で数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・話し合いやグループ活動を通して意見を共有し、役割を担って協力的に課題解決へ取り組む姿勢の育成を図る。 ・教科書や資料、個人用PCを活用して必要な情報を主体的に収集・整理し、その内容をもとに自分の考えを深める学習を促進する。 ・課題に対して仮説を立てたり多面的に考察したりする学習を通して思考力を伸ばし、振り返りを重視して自らの成長を実感できる機会をつくる。

1- (2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A 2 生徒は、思いやりの心 をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上	・陽北 Good job 賞の取り組み等を通して、より積極的に生徒の良さを発見し、認め、賞賛し、自己有用感を育成する。 ・道徳科の授業や学校行事等を通して、他者への思いやりの心を育成するような指導を行い、保護者や地域にも発信していく。	B	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、生徒が92.3%、教職員が100%で共に数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・生徒の良さを学校全体で共有できるような取り組みを検討し、実践できるようにする。
	A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・全教職員で、学校行事や部活動など、集団や個人の達成目標について、明確な達成目標を立てられるような助言・活動を工夫していく。 ・目標に向けて努力することのすばらしさを全教育活動の中で伝え、目標達成に向けて努力する生徒を認める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、83.1%で数値目標を下回った。 【次年度の方針】 ・数値目標はやや下回っているが、主体的に目標に向かって取り組む姿が多く見られた。引き続き目標達成を実感できるように励まし、認める機会を設けていく。
1- (3) 健康で安全 な生活を実現 する力を育む 教育の推進	A 4 生徒は、健康や安全に 気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上	・保健主事を中心に保健だよりや食育だより、委員会活動を通して健康についての啓発を行い、健康に関する自己管理能力を高める。 ・保健安全部主導で、安全教育全般を通して、思考力・判断力・表現力を育成していく。	B	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、生徒が90.8%、教職員が92.6%で共に数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・保健主事を中心に健康についての啓発を日常的に行い、健康に関する自己管理能力を高める。 ・給食後の歯みがきについて、全学年統一で行っていただけるように委員会活動などを通して呼びかけを行う。
1- (4) 将来への希望 と協働する 力を育む 教育の推進	A 5 生徒は、自分のよさや 成長を実感し、協力して 生活をよりよくしようと している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・各種学校行事や生徒会活動、学級での係活動等において、生徒が主体となって活躍できる場を積極的に設定する。 ・生徒が自己肯定感をもちながら、互いに認め合える受容的な雰囲気づくりを行う。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、91.4%で数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・生徒が主体となって活躍できる場を設け、その成果を引き続き伝えとともに、生徒が互いに認め合える場面を設定していく。
2- (1) グローバル 社会に主体的 に向き合い、 郷土愛を醸成 する教育の推進	A 6 生徒は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	・オールイングリッシュの授業実践を展開し、コミュニケーション場면을意図的に設定していくなど、英語科での言語活動を工夫し、お互いに伝え合う活動の機会を増やしていく。	A	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、79.3%で数値目標をわずかに下回った。 【次年度の方針】 ・英語科で言語活動の工夫を続け、お互いに伝え合う活動の機会を設けていく。 ・オールイングリッシュの授業を実践し、話すことの活動をコミュニケーションと発表に分けて行う。
	A 7 生徒は、宇都宮の良さを 知っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・地域連携教員を中心に地域人材の活用や地域の教育資源を活用するなど、取り組みを工夫する。 ・総合的な学習の時間での宇都宮学を活用して、地元への関心を高める。 ・百人一首など生徒に身近な教育資源を活用することで、宇都宮の文化や歴史に触れる機会を増やしていく。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、86.7%で数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、宇都宮学を通して、地域への興味関心を高めるとともに、宇都宮の文化や歴史について触れる機会を増やしていく。

<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A8 生徒は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>・各教科の年間計画を見直し、授業展 開のなかに、端末を活用する場面を意 図的に設定していく。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答の割合は、100% で数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・探究的な学習の授業の際に、デジタル 機器を活用する場面を取り入れ、生徒の 主体的な学びを促進する。また、図書室 の本を活用した調べ学習の機会を設け る。 ・日常生活の様々な場面でデジタル機 器を活用する中で、情報モラルやリテラ シーの育成を図る。</p>
<p>2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A9 生徒は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>・総合的な学習の時間を軸とした教 科横断的な計画を立て、3年間を通し た活動をしていく。 ・全教職員が学校行事やボランティ ア活動をはじめ、生徒の自己有用感が 高められる場面を多く設定していく。 ・現代社会の課題として「持続可能な 社会」について、生徒への投げ掛けを 意図的に行い、主体的に学びに向かえ る学習方法を工夫していく。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、77.3%で 数値目標を下回った。 【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間を活用して三年 間を通じて活動を行う。また社会科な どの教科指導の中で「持続可能な社会」 について考える場面を設定し、生徒が主 体的に考えることのできるようにしてい く。</p>
<p>3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援 を必要とする生徒の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>・インクルーシブ教育の視点を意識 し、SC、SCM、校内教育支援セン ター支援員、養護教諭との連携を図 り、情報共有や互いの報告、連絡、相 談を徹底する。合わせて合理的配慮に ついての共通理解や、意見の交換の場 を設ける。 ・かがやきルームについて、効果的な 支援を踏襲・継続し、さらに適切な支 援の充実を図る。 ・教育課程に特別支援教育推進委員 会を位置づけ、年2回の実施をしてい くほか、必要に応じ臨時委員会を開い ていく。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答の割合は、100% で数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・特別支援教育推進委員会及び教育相 談部会を通し、切れ目ない支援の提供を 目指し、教職員間の情報共有に努める。 ・特別な教育的支援を必要とする生徒 の学習及び生活環境の整備を図るため に、合理的配慮を提供する。 ・年に1回以上の特別支援教育に関す る研修を行い、教職員のインクルーシブ 教育に関する意識醸成を図る。</p>
<p>3- (2) いじめ・不 登校対策の 充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許 されない行為であることを 指導している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>・いじめゼロ強調月間に合わせて、 「学校生活のアンケート」を実施し、 現状を把握するとともに、いじめの早 期発見に努める。 ・生徒会主体のいじめゼロ集会を行 い、いじめゼロ宣言やいじめゼロ標語 募集など、いじめゼロに向けての活動 を行い、生徒の意識向上を図る。 ・取り組みを学校HPや生徒指導だ よりなどで校外に向けて発信をする 機会を増やし、一層充実していく。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、生徒が96.4%、 教職員が100%で共に数値目標を上回 った。 【次年度の方針】 ・校内で行った活動を校外に向けて発 信する取り組みは継続したい。教職員へ のいじめ等対策についての研修などを 行うとともに、日ごろからいじめに対 するアンテナを高く持ち、未然防止・早期 発見に努める。</p>
	<p>A12 教職員は、不登校を生 まない学級経営を行って いる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>・教育相談部会（不登校対策委員会） を中心に組織的に取り組む。 ・宮っ子ダイアリーの活用を図り、生 徒の良い点や善い行いを賞賛するこ とで、自己有用感をさらに高めてい く。また生徒の不安なども早期に発見 し、対応することを継続する。 ・Q-Uを効果的に活用し、円滑な学 級経営を目指す。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、生徒が97.5%、 教職員が100%で共に数値目標を上回 った。 【次年度の方針】 ・多様な不登校の背景を的確に捉え、今 後も組織的に対策を行い、学校全体の課 題として取り組みたい。また、日常から、 自己有用感を高めるような声掛けや取 組を継続して、不登校を生まない学級経 営に努めたい。</p>

<p>3- (3) 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や生徒会活動など、生徒の自発的な活動を教職員が要所で支援し、達成感や充実感を味わわせ、自己有用感を高めていく。 ・生徒を主体とした活動を大切に、生徒の学びの機会を提供していく。 ・生徒の良さへの称賛を陽北 Good job 賞などで行うことで、教職員は常に生徒のよさを見つけ認めて伸ばし、生徒の居がいのある学校づくりを目指す。 	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、生徒が97.7%、教職員が100%で共に数値目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・生徒一人一人が輝ける場所作りを念頭に置き、生徒主体で学校行事を計画・運営できるように教職員は支援していく。また、どんな時でも教員は生徒と真摯に向き合い、生徒の声に耳を傾ける。</p>
<p>3- (4) 多様な教育的 ニーズへの 対応の強化</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科部会を充実させ、授業展開の工夫やICT機器の効果的な活用を検討し、授業力向上に努めていく。 ・学校HPや各種たよりを通して、授業の様子や生徒の実態を発信していく。 ・校内授業研究会や「授業力向上旬間」を充実させることで、教師の授業力を向上させ、生徒の学力向上を図っていく。 	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、生徒が96.2%、教職員が100%で共に数値目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・教科部会を充実させ、「分かる授業」のための授業展開・教材・評価の工夫を継続的に検討する。 ・ICT機器を効果的に活用し、個に応じた指導を充実させる。 ・学校HPやたより等で授業の様子や取組を発信し、家庭との連携を強化する。 </p>
<p>4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営方針具現化のために、チームとしての具体的な到達目標をいくつか設定する。その実現のために自分は何をすべきかを個々の教職員評価の具体的な目標設定に策定できるようにする。 ・学校行事や職員研修等を通して、全教職員が専門性を生かして、業務に取り組む体制づくりをする。 	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答の割合は、85.2%で数値目標をわずかに上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・学校経営方針の重点目標の達成に向け、各部の具体策を検討し、個々の教職員評価の具体的な目標設定を継続する。 ・全教職員の専門性を生かして、業務に取り組む体制をつくる。 ・日々のコミュニケーションを通して、教職員の共通理解を図る。 </p>
<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の勤務時間と仕事効率の意識化を高める工夫をする。 ・ICTの活用を充実させ、業務の精選・効率化を図る。 ・文書やデータ、各教科の物品などの保管場所を設定するとともに、整理し、機能的な環境をつくる。 	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答の割合は、88.9%で数値目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・優先順位を考えながら、仕事を行い、個々の勤務時間を意識させる。 ・効率的にICTを活用し、日常業務の見直しや内容の改善を行う。 ・働きやすい環境づくりを継続する。 </p>
<p>4- (3) 学校における 働き方改 革の推進</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中交流授業を各小学校で実施する。 ・年2回のあいさつ運動など、生徒の自主的な参加を促していく。 ・年2回の小中合同家庭学習強化週間を設ける。 ・小学校6年生の中学校訪問を実施する。 	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、生徒が84.5%で数値目標をわずかに下回ったが、教職員が88.9%で数値目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・生徒会の取り組みであるあいさつ運動をはじめ、地域での奉仕活動などでの交流や地域学校園の小学校との交流会や意見交換会をオンラインで行う。</p>
<p>5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中交流授業を各小学校で実施する。 ・年2回のあいさつ運動など、生徒の自主的な参加を促していく。 ・年2回の小中合同家庭学習強化週間を設ける。 ・小学校6年生の中学校訪問を実施する。 	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、生徒が84.5%で数値目標をわずかに下回ったが、教職員が88.9%で数値目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・生徒会の取り組みであるあいさつ運動をはじめ、地域での奉仕活動などでの交流や地域学校園の小学校との交流会や意見交換会をオンラインで行う。</p>

5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。	・1年「働く人に学ぶ」や2年「社会体験学習」など、地域の職業人や事業所への理解を一層深められるようにする。 ・望ましい職業感の形成や主体的に学ぶ進路学習の実践など、キャリア教育の充実を図る。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が92.6%、地域住民が90.9%で共に数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・各学年において地域の人材や事業所とのつながりを大切にし、理解を深めるとともに、実践的なキャリア教育の充実を図っていく。また、学習活動の内容を適切に地域へ発信していく。
5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上 地域住民の肯定的回答 85%以上		B
6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 85%以上	・安全教育係を中心に、毎月1回の安全点検を組織的に実施する。 ・市会計年度任用職員（学校業務）や機動班と連携を図り、修繕箇所の早期改善に努める。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が88.9%、保護者が89.8%で共に数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・月に1回の安全点検で確認するだけでなく、日ごろから担当場所の見回り点検を行い、日常的に実施する。なお、修繕が必要な場合には速やかに副校長、学校業務に報告をして早期に修繕改善に努める。 ・避難訓練の実施により危機意識の向上を図る。
6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	・ICT支援員と連携しながら、校内のICT環境の整備に努め、教職員間で共有化を図る。 ・ICT支援員と連携し、ICTを用いた授業づくりや学活・総合等での効果的な取り入れ方についての情報の共有を図る。また、校内研修の充実にも努める。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答の割合は、96.3%で数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・ICT支援員との連携体制を最適化し、校内のICT活用を一層推進していく。 ・係内での役割分担を再編し、教職員と支援員がそれぞれの強みを活かし、効率的に業務を共有できる仕組みを整え、授業や校務のさらなる充実に努める。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 85%以上	・生徒会執行部、生活委員会による「あいさつ運動」に参加した生徒に対して「陽北 Good job 賞」等を用いて、称賛するような働きかけをし、生徒自身が自主的に活発なあいさつができるように育成する。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、生徒が98.0%、保護者が91.0%で共に数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・場面や相手に関係なく、堂々とあいさつができるように、教員が見本を見せながら支援していく。
	B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上	・全教職員でできている行動・良い行動を認めるなど生徒の行動を積極的に称賛する。 ・場面にあった判断を自分で行っていけるような「自己指導能力」の向上を図り、より一層、きまりやマナーを順守するような態度や思いを醸成する。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、生徒が96.8%、教職員が100%で共に数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・きまりの検討だけではなく、きまりやマナーをなぜ守るのか、そもそもなぜそれらがあるのかなどを学校全体で考えていくような取り組みを検討したい。

	<p>B3 生徒は、進んで運動をしている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上 教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>・年間を通して、単元に合わせた補強運動を実施しながら、体力の向上を図るとともに、運動に親しむ態度を養う。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、生徒が69.1%で数値目標を下回ったが、教職員が100%で数値目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・年間を通して、単元に合わせた補強運動を引き続き実施しながら、体力の向上を図るとともに、運動に親しむ態度を養う。 ・各クラスにボールを配布しているので、ボールを活用して外に出る習慣をつけさせる。</p>
	<p>B4 学校全体で校訓「聡く強く美しく」を共有化し、生徒同士の連帯感を高めている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>・本校の教育活動の指標、伝統を、学校が元気に力強く進んでいくためのスローガンとして、様々な活動や取組において啓発していく。 ・生徒の自主的・自治的に活動できる場を積極的に取り入れ、生徒の自信や自己有用感を高める。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答の割合は、100%で数値目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・様々な取り組みを通して、校訓と結びつけ、協調することで、その実現に向けて生徒および教職員の意識を高める。 ・運動会や文化祭等の学校行事において、生徒が主体的に活動する場を増やしていく。</p>
	<p>B5 生徒は、校訓「聡く強く美しく」のもと、力を合わせて、学校行事をはじめ様々な活動に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>・様々な活動や取組において、「校訓」を本校の伝統、目指す生徒像として実施することを啓発していく。 ・校内各所への掲示、各種通信など周知を図り、充実させていく。 ・一人一人の個性の伸長を図るとともに協働して、学校行事や生徒会活動等に取り組む態度を養う。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、90.8%で数値目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・様々な活動や取組において、「校訓」を意識できるよう、計画や振り返りにおいて啓発していく。 ・校内各所への掲示、各種通信などの周知を継続する。 ・一人一人の個性の伸長を図りつつ、学校行事や生徒会活動等を協力して行えるようにする。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・生徒のアンケート結果では、市内中学校平均と大きな差はなかった。質問事項A5「児童生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。」では、昨年度より5ポイント以上上回っており、市内中学校平均も上回っている。学校全体で行う行事等が定着し、生徒が主体的に活動する場が増えたためと考えられる。

・保護者のアンケート結果では、市内中学校平均をほぼ上回った。質問事項A1「児童生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」と質問事項A8「児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」では、市内中学校平均を5ポイント以上上回っている。また、質問事項A8については、昨年度より5ポイント以上上回っている。

・教職員のアンケート結果では、9項目（質問事項A1・A2・A5・A6・A8・A9・A16・B1・B2）で市内中学校平均を5ポイント以上上回っている。特に質問事項A9「児童生徒は、『持続可能な社会』について、関心を持っている。」やB1「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。」、B2「児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活している。」では、大きく上回っている。アンケート結果から、生徒が学習に意欲的に取り組み、落ち着いた学校生活を送っている様子を見ることができる。

○質問事項A17「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」と質問事項A18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」においては、市内中学校平均と大きな差はなかった。地域学校園あいさつ運動や宮っ子チャレンジ等において、今後もより一層充実した取組になるよう地域学校園内で連携を図りながら実践していきたい。

7 学校関係者評価

- ・学校目標達成のため、全職員が共通理解のもと一丸となって取り組まれ、着実に成果を上げておられることが窺えます。次年度も引き続き取り組まれ、陽北中生徒の健全育成に努めていただくようお願いします。
- ・SNSを使用して事件、事故に巻き込まれぬよう、携帯電話の使用の仕方、情報モラル教育の更なる徹底をお願いします。
- ・全体的に陽北中の先生方は定められた時間の中で、地域や家庭、生徒とのコミュニケーションを図りながら、多くのタスクをこなして下さるすばらしい学校だと思います。
- ・質問事項A8「児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」では、保護者が5ポイント増加している。努力の結果と思われます。
- ・パソコンを利用した学習が進んでいると思うが、自分の考えを言葉にする機会を増やしてほしいと思います。
- ・お互いを受け入れる、認め合えるようになってほしい。
- ・教職員に関しては、熱心な教職員も多く見られるので、生徒一人一人に対してプレッシャーを与えることがない学校生活を望みます。
- ・きまりやマナーを守って生活をしていることに対する地域住民の認識は高い。しかし、あいさつという実践においては評価が低いのは、子どもたちの方からあいさつがないと考えられるので、大人の方から手本となる声かけをすることも必要である。
- ・チームで（家庭、学校、地域）多方面からの教育が必要とされる時代に入っているように感じます。
- ・学ぶこと、人とのつながりを楽しめる学校であることを切に願います。
- ・質問事項A5「生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。」の生徒の回答が数値目標を上回った姿は、運動会や合唱コンクールでの様子によく現れていたと思います。
- ・主体的に活躍できる場面を適切に設定していくことが望まれます。
- ・自分の力が発揮できることで自信をつけていけるとと思いますので、いろいろな場面を考えていけるとよいと思います。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

- ・生徒の肯定的回答は、昨年度とほぼ変わらないが、上昇している項目が多く見られた。「自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている」については、5ポイント以上上回ることができた。今後も、生徒が主体となって活躍できる場を設け、その成果を引き続き伝えるとともに、生徒が互いに認め合える場面を設定していく。
 - ・教職員の肯定的回答は、3項目において10ポイント以上、2項目について5ポイント以上上回った。特に「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」については、19.2ポイント上回ることができた。働き方改革に関する研修を行い、仕事への取り組み方や勤務時間を意識する機会が設けられたためと考えられる。「教職員の協力」や「安全に配慮した環境づくり」については、課題が見られた。日常からチームで取り組めるような組織づくりや施設の修繕箇所に対して速やかに対応できる体制を強化していく。
 - ・保護者の肯定的回答においては、昨年度とほぼ変わらないが、すべての項目で上昇することができた。学校での生徒の様子をホームページやさくら連絡網等を通して、より効果的に発信することにより、学校の取組がよくわかるようになってきたと考えられる。
 - ・市全体との比較で、どの項目も市平均とほぼ同等の結果でした。教職員については、昨年に引き続き、生徒の学校生活に関する項目で市平均を上回った。生徒が落ち着いた学校生活を送っているためと考えられる。教職員の働き方については改善が見られ、市平均を上回った。今後も、ICT活用による業務の効率化を図り、教職員が働き方改革を意識した職場の雰囲気づくりをしていく。
- 小中一貫教育・地域学校園の取組については、今後も、より一層充実した取組になるよう地域学校園内で連携を図りながら、地域学校園あいさつ運動や宮っ子チャレンジ等を実践していく。また、会議の形式についても工夫をしていく。
- ・今年度は昨年度とほぼ変わらない項目が、多く見られた。その年によって上下する項目もあるので、今後も変動なく安定させるためには、根気強く指導にあたる必要があると考える。